

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270102132		
法人名	有限会社 長建寄り逢い長崎		
事業所名	グループホーム坂の上の紫陽花		
所在地	長崎市本河内2丁目14-15		
自己評価作成日	平成22年1月5日	評価結果市町村受理日	平成22年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成22年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフと入居者の交流触れ合いの場を設けて、毎日16時より30分程度レクリエーションとして、輪投げ・花札・トランプ・ちぎり絵・歌を唄う・お手玉・ぬり絵・パズル・ボーリング等を行っている。(自由参加)夕食前16時半より1時間程度手作り餃子(火曜日)、ハンバーグ(土曜日)作りを入居者のみなさんと楽しんでいる。食事時間も手作り談義に花が咲き過ごされている。

利用者の尊厳を重視し押し付けず、地域でゆっくり暮らす支援を実践している。地域との交流が頻繁にあり利用者の徘徊時、事業所へ連絡が入るなど地域と連携が取れている。避難訓練を実際に夜間に行い、誘導灯を検討するなど利用者の安全な生活について積極的に取り組んでいる。個人記録や介護計画書等様式を検討するなど改善が見られ、事業所の前向きな姿勢がうかがえる。看取りに対する指針を掲げ利用者や家族に説明し、早期より利用者、家族、医療関係者、職員一体となって話し合い段階に応じて利用者にとりよければ話し合い職員は全員で確認しながら支援している。身寄りの無い利用者の看取りや葬儀まで行うなど、尊厳を持って最期まで最善を尽くす事を事業所の信念としており、事業所の福祉への想いは深いものがある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員は日々のミーティングを通じて、理念を共有しその実践に向けて取り組んでいる。 また、理念の共有を出来るよう毎日ミーティングで確認している。	「尊厳」「のんびりゆっくり家庭的に」「地域の皆さんに理解してもらう」の理念の中で、尊厳を最も重視し押し付けず、地域でゆっくり暮らす介護の実践に取り組むため、日々のミーティングで確認し支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の活動への参加や地元の人々との交流に努めている。ホームを地域に開放し地域で出来ることに取り組んでいる。 さらに、地域の中でその人らしく暮らしていくことが出来よう独自の理念を作っている。	自治会に加入し、班長もしている。老人会の行事の参加や、中学校の職場体験、学生ボランティア等を受け入れ、地域との交流が盛んである。事業所へ地域の方の介護相談や、災害時の避難場所として開放しており、徘徊している高齢者がいると問い合わせがある等連携が取れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの見学などを自由に行い、地域の方々が気軽に立ち寄れる雰囲気作り心掛けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実施し、町内会役員、老人会会長、利用者、家族、法人代表者及び管理者で構成している。運営推進会議は2ヶ月に1回実施している。	運営推進会議は2ヶ月に1度開催しており、メンバーは要件を満たしている。自治会長の勧めで職員と利用者が地域の土砂災害訓練に参加し災害対策に役立っている。また、参加したことで地域の理解が深まり、地域の高齢化についての不安の相談等行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者及び包括支援センター職員の方と連携を充分にとりサービスの質の向上に努めている。介護相談員などの訪問をお願いし、市などと連携し取り組んでいる。	介護相談員の訪問があり、ケアプランの相談や利用者や家族と話をしている。市や包括支援センターから事業所へ身元引き受け人の相談がある等、常に連携し協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関などの施錠は禁止し、自由に気軽に立ち寄ることが出来るよう努めている。玄関の鍵をかけることも「拘束の1つ」とスタッフに教育している。	身体拘束をしないことを前提に取り組み、言葉による拘束について特に気がけており、利用者の目線で、やさしく、ゆっくり接するよう配慮している。玄関は夜間のみ施錠である。身体拘束についてミーティングで話し合っているが、今年度は研修が実施されていない。	研修計画の中に、身体拘束の研修を組み入れ、身体拘束について理解を深め、職員全体で周知し、利用者の尊厳を重視した支援に繋げることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見過ごさないようモニターなどを設置し管理している。		

グループホーム坂の上の紫陽花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の半分以上が権利擁護を利用し、必要な状態がきたら関係者と話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料の改定時などは、事前に手紙などを郵送し家族等に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の状態変化時の連絡や健康面での相談を話し合い家族の意見なども運営に反映している。家族の訪問時など日常の様子を報告を日常的に行っている。	利用者や家族の要望等は、訪問時に聞き取り申し送りに記録し、職員間で話し合い運営に反映している。苦情窓口は、重要事項説明書に明記し、契約時に説明している。また、苦情解決の流れも明確にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者が馴染みの職員により支援をうけられるよう異動など必要最小限に抑えるようにしている。同系列のホームが隣接しており、普段から入居者とスタッフの馴染みの関係作りに力を入れている。	職員は代表者や管理者に、日頃から話しやすい関係ができており、書類の集約や、チェック項目の見直し等の改善提案の意見も出ている。年2回の懇親会では、職員が日頃の思いを出し合い、代表者はその思いを、運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の段階に応じて、緊急時の対応や認知症の知識を説明している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修など積極的に参加を促し、職員の力量の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームの見学はいつでも受け入れ、医療機関などと情報交換しケアサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の話をゆっくり聴き、そばに付き添い信頼関係が築くよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がどんなことで困っているのかを聞き、出来る限り要望に答えるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が一番必要としているのか見極め、安心した生活を送れるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の尊厳を尊重しながら支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活してきた習慣が変わらないよう支援し支えあう関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が安心した環境の中で生活出来るよう家族と相談しながら工夫している。犬や猫なども一緒にホームで生活し、家庭的な雰囲気の中で暮らせるよう支援している。	月に1回自宅帰宅、墓の周辺へドライブ、利用開始以前からの行きつけの理容室や馴染みの商店へ買い物に同行する等、利用者の馴染みの人や場所の関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう利用者同士の触れ合う時間を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じて相談などにのり、これまでの関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を把握し、外出や趣味への支援などを本人本位に検討している。	利用者の思いや希望は、ゆっくり表情を見ながらマンツーマンで語りかけ聴いている。意向の表出に困難な方は、利用者の心身の状況を考慮しながら、本人の思いに寄り添い把握している。把握した内容は介護記録や申し送りノートに記入し、職員間で共有し、本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴、環境を把握しその人らしく暮らせるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の希望や思いを把握して一人ひとりを大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方についてスタッフなどの意見を取り入れ、状態変化に応じて見直しをしている。今後は、個人記録の様式の検討を行い、介護計画に反映できるよう努力する。	利用開始時1週間程で、本人、家族の要望を聞き、アセスメントを取りサービス担当者会議で検討しケアプランを作成している。短期3ヶ月、長期6ヶ月の目標を設定し、本人、家族の希望を反映させながら3ヶ月に一度見直ししている。また状態変化後や入退院後も利用者や家族、医師や関係者と相談し現状に即した見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、フタツフ一人ひとりの気づきなどを記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ、適切な医療が受けられるよう支援している。		

グループホーム坂の上の紫陽花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支え、日々の楽しい生活を送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	健康状態や急変時などかかりつけ医師に報告し、適切な医療を受けられるようにしている。通院が困難な利用者は往診を協力病院に依頼している。	入居前からのかかりつけ医に受診できている。通院が困難な利用者は、週2回、協力医が往診し結果は家族へ報告している。通院時家族が付き添う場合も、職員も同行し安心できる受診となっている。夜間の急変時は協力医に相談し、連携が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	通院が困難な利用者の方は、訪問看護などを利用し必要な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心した治療を受け、早期に退院出来るよう情報交換を常に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関して契約書に明記し、家族に同意書もいただき、職員にもホームの方針を説明している。終末期のあり方について早期に本人、家族の意思を確認している。	看取りの指針が契約書に明記され、説明後同意を得ている。尊厳を持って最期まで最善を尽くす事が事業所の信念となっている。状態の変化に応じて、家族・医師・職員間で話しあい、訪問看護の利用や医療関係と連携し看取りの実績もある。職員間の研修や精神的フォローも行われ手厚い支援を実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応法を定期的に訓練し、初期対応がスムーズに行えるよう訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・避難訓練や地域の災害訓練に参加し日頃より実技を行っている。半年に一度昼夜を問わず火災・避難訓練を実施している。	年2回以上避難訓練を実施し、地震等想定を変えて頻繁に行っている。特に夜間に訓練を実施し、誘導灯を検討する等気づきがあり今後活かせる訓練となっている。職員の避難誘導等次回につなげる工夫があり、緊急連絡網も機能する場所にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉かけを行っている。声かけや対応時にプライバシーを損ねないようスタッフに日頃から指導している。	トイレ誘導は、自尊心を傷つけないよう耳元でそつと声をかけしている。個人情報の書類は、外部から見えないよう工夫し所定の場所に保管している。職員の守秘義務は雇用契約書に盛り込まれ、尊厳を重んじた声かけを心がけており、写真掲載の際も家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望や思いを把握して一人ひとりのペースを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先せず、利用者の希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりの個性に合わせ、その人らしくおしゃれが出来るよう取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう好みなどを取り入れ、栄養バランスにも気を使っている。利用者の食べたいものなどを尋ね献立に取り入れている。	利用者の嗜好を把握しており、職員によるバランスを考慮した手作りの食事と、週2回は利用者が力を発揮しハンバーグや餃子を一緒に作り楽しみとなっている。アレルギーや咀嚼力に合わせ、別の食材やミキサー食の対応があり、職員もテーブルを囲んで同じ食事を取っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに応じた食事量と1日の水分量などを日々の記録に明記している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じ口腔内の清潔保持に努めている。		

グループホーム坂の上の紫陽花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、失禁を出来る限り少なくなるよう支援している。自立に向けた排泄介助に取り組んでいる。	排泄表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレでの排泄が出来るよう、声をかけ支援している。トレーニングパンツから布パンツに改善された利用者は、顔の表情も明るくなり、自立がいかに大切なことが職員も理解している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	無理のない運動を行い、便秘予防に努めている。毎日排便確認をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回としているが、状況に応じて足湯を行い一人ひとりの希望に沿った湯温度に設定している。	入浴は月水金の週3回、希望に沿った好みの湯温や入浴剤を使用している。また、入浴拒否の場合は無理せず時間・日を変えて対応し、車椅子利用の方は、曜日を変えてゆっくり入浴介助を行っており、体調等状況に応じて足湯や清拭、シャワーを使用するなど細やかに支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休まれるよう一人ひとりにあった生活環境を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食後内服薬の確認をし、副作用などの変化に注意し用法などの理解をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話の中から趣味や生活歴をなげなく聞き出し、楽しみごとにつながるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩などを行い季節の行事を企画し、花見などを行事の中に取り入れ外出の機会を多くしている。一方、利用者の方々の年齢も高齢になってきているため、無理な外出がないよう心掛けている。	週2回程外出している。散歩や買い物に同行し、外食や遠方へドライブ、帰宅など個々の行きたい所の希望に沿って体調を考慮し柔軟に対応している。外出が無理な時は、日時をずらして対応している。花見など季節感を味わう外出や温泉に出かけている。	

グループホーム坂の上の紫陽花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりに応じた金銭管理をしていたいただき、お金の使用時の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話など自由に利用していただき、手紙なども投函が困難の方はスタッフのほうで投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間で犬・猫を飼い、利用者の癒しに繋がっている。近隣の様子、山々の紅葉が見られ季節感がある。さらにリビングなどに季節にあった花などを飾り、季節感を感じていただいている。	古民家を改造し、リビングは明るく山々が望め季節感がある。テーブルやソファはゆったりと寛げる様配置され手すりを設置しバリアフリーとなっている。掃除は外注し清潔に保たれ、換気や湿度、温度も調整されている。写真や貼り絵、花が飾られ、飼っている犬や猫が利用者の癒しの一環となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	民家を改築して家庭的な雰囲気の中で生活していただけるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具などを持ち込んでもらい、居心地よく過ごしてもらえるよう工夫している。仏壇などを持ってこられ安心した環境の中で生活されている。	居室は、使い馴染んだ家具、テレビ、仏壇等持ち込まれ、家族と相談しそれぞれ思い思いに工夫されている。加湿器や利用者の好みの暖房機器を設置し、職員は各部屋の室温や換気を調整し居心地良く支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全性を考えながら、一人ひとりに合った生活環境を整えている。		